医学教育シリーズ

# 海外での臨床実習を終えて

橋村茉利子

近畿大学医学部6学年

## 始　め　に

私は2010年5月3日〜6月12日の6週間，Akron General Medical Center（以下，AGMC）で，臨床実習をさせていただきました．AGMCはNEOUCOMCollege of medicineの関連病院であり，500床ほどの一般病院です．私はGeneral Surgeryを回らせていただきました．

以下に，実習内容の報告やアメリカの医療制度，また医学教育など私が体験した事を報告します．

## 日米の差

まず，私が留学期間中によく質問されたことなのですが，アメリカと日本においての医学教育の期間の違いについてです．まず，高等学校を卒業後，日本では大学の医学部に入学し，六年間教育を受けることになりますが，アメリカでは異なります．四年制の大学を卒業してから，医学部に入学し，四年間の医学教育を受けます．医学部入学の際に，日本での医師免許に当たるUSMLEのSTEP1をクリアしなければならず，また，医学部卒業の際にSTEP2，医師となってから，STEP3をクリアしなければなりません．STEP1，STEP2をクリアしないと，医療行為を行うことはできません．私が，日本では，高等学校卒業後に医学部に入学する話をすると，自分の人生の進路を決定するには若すぎると言われたのが印象的です．

## 研　　修

AGMCでは，Medical Doctorは二つの地位がありました．それは，residentとattendingです．医大を卒業するとresidentとなり，マッチングで決まった一つの研修病院を主な仕事場とし，手術ではattendingの助手を務めます．residentは5年でfellowshipとなり，自分のclinicを持つそうです．AGMCでは，General Surgeryにおいては，手術のメインの術者はattendingであり，病院内にofficeがありoutpatient clinicを持っています．（外科部長もattendingという立場でいらっしゃったので，attending内でも地位があるのかどうかまではわかりません．）

NEOUCOMのmedical student（学年はM3です）が私と同時期にGeneral Surgeryを回っていたのですが，attendig一人に学生一人がつくといった様子でした．私は五年目以上のresident（シニアレジデントに当たると考えています）の先生につくこととなっていました．

## 臨床実習

次に，実習内容についてです．実習内容は，General Surgeryを回らせていただいていたので，基本的には手術の見学です．

○一日のタイムスケジュールは以下に示します．

―AM 6：00過ぎ　病院到着

―AM 6：15〜7：00　NEOUCOMの学生は，担当患者さんのバイタルや身体所見をチェックし，問診を行い，カルテに記入します．residentも同時刻に回診を行っているので，residentに学生は患者さんの状態を報告します．私は，NEOUCOMの学生やresidentと一緒に回診させていただきました．

―AM 7：00〜8：00　学生は週に3日はlectureがあります．全員出席しなければなりません．あ



る時はスライド，ある時は口頭試問の形式で進みました．また，週に 2 日はカンファレンスがあるので，lecture がない日は参加していました．

―AM 8：30～ 手術に参加します．日により，手術の内容も件数も違いますが，大体 2 ～ 4 件入るといった形です．手術前には術前の回診などがあり，合間には attending の回診があり，resident と共に見学します．Resident は朝回診した患者さんの状態をこの場で報告します．

―PM15：00～19：00 終了

○また，週に 1 回，night call に学生は参加します．これは，救急当直と同義であり，救急患者さんが来ると，連絡が入り，初期治療，管理の見学ができます．Night call に参加すると，翌日は午前中の実習が終われば，その日の実習は終了になります．(resident も night call の翌日の仕事は午前中で終わります)

○次に，内容について，私が近畿大学での実習との違いと感じた事も含め，深く述べさせていただきます．まず，先ほども述べた手術についてですが，手術は執刀医として，attendig の先生一人，resident の先生一人，看護師一人，学生一人で進めていきます．扱う症例は，胆石，腹壁ヘルニア，鼠径ヘルニア，急性虫垂炎，逆流性食道炎，憩室炎，潰瘍性大腸炎，乳癌，大腸癌などです．手術中の学生の仕事は，近畿大学での外科の実習と変わらず，手洗いさせていただいた場合は，鈎引き，吸引，ステイプラーによる閉創などです．指導して下さる先生によっては，腹腔鏡での創の縫合なども教えてくださり，経験させていただきました．

○多くの手術を見学しましたが，その中でも cholecystectomy を見学させていただく機会が多かったように思います．もちろん，私が日本で主に実習していたのは大学病院ですので，まず一般病院と大学病院との違いで扱う疾患は多少変わり，cholecystectomy が多かったのは一般病院だからかもしれません．大学病院では，cholecystectomy を数多く見る機会がなかったというのもありますが，アメリカは gall stone が多いということを改めて実感しました．また，興味深かったのは肥満減量手術です．胃のバイパスを造設するという内容でしたが，アメリカ人の体質を反映していると感じました．また，先進医療である，ロボット手術も見学する機会を得ました．General Surgery ではなく，urology で腹腔鏡術を見た時の事です．術者が機械により，腹腔鏡手術の操作を行っていましたが，離れた位置からでも術野が立体的に把握でき，驚きました．そのように，General Surgery だけでなく，他の科による手術も見学させていただくことができました．自己紹介をし，見学していいかの旨を伝えると，どの科の先生も快く教えてくださり，学ぼうとする学生に対してとても暖かく接してくださることを感じました．他には，日本では保険適応でない治療も見学できました．例えば，手術場で行った Mammosite という乳癌に対する局所的に行う放射線治療を見学する機会が得られ，大変興味深いと思いました．

## 当　　直

○先程述べた Night call についてですが，私が勉強になった実習と感じたので，詳細を述べたいと思います．ここでは，主に trauma の患者さんが多く，General Surgery の attendig が trauma を専門とする先生であり，チーフとして，五年目以上の resident が当たっていました．trauma の原因は car accident がとても多かったです．Gun shot などももちろんありますが，残念ながら，私は直接見学する機会は得られませんでした．我々は trauma pager という外傷患者が運ばれてきたときにそれを知らせるポケベルを持ち，行動していました．知らせを受けると，初療室にかけつけ，問診や初期治療，ポータブルのX線，CT といった流れで参加させていただいていました．

○また，trauma 以外の腹痛などで運ばれてきた患者さんには学生がまず始めに問診，身体所見をとり，必要な検査，鑑別診断を resident と話し合う，という内容で勉強になったと思います．近畿大学の実習では，当直実習のようなものはないので，夜中に実習する事は慣れない英語もあり，大変疲れますが，他の学生と共に考え，resident の質問に答えるといった経験は私にとってとてもいいものとなりました．

## 学生の回診

学生の毎日行う回診について，述べます．AGMC は患者さんの画像や labo data などは，コンピューター上で確認できますが，カルテは紙カルテで，病室の入り口に設置されており，学生や医師は回診を行うと，その場で書き込みます．コンピューターは，図書館や，学生や医師が使うラウンジなどにも設置されており，病棟だけでなく，病院内の様々な場所で（セキュリティはもちろんあります）患者さんの状態を確認できる様になっていました．学生は，1 週間ごとに指導医の先生は変わり，先生により，担当する患者さんの数も違いますが，2 ～ 6 人受け持っていた印象です．患者さんの状態を責任を持って，

attending に詳しく報告するためにも，朝の 4 時から回診して，疑問について調べている学生もいました．アメリカでは，術後の在院日数は日本より短いです．Appendectomy や cholecystectomy のような腹腔鏡手術は 0 〜 1 日，colon resection は 3 〜 6 日という具合です．在院日数の短さを反映してか，合併症等による再入院も多く，術前・術後の問診の重要性を特に感じました．

## 講　　義

最後に，lecture についてです．lecture はまず，アウトラインが渡されていて，そこには，学習目標や質問が記されているので，それに沿って予習をしてから，lecture を受けるようにしていました．そのアウトラインの内容は，臨床に沿って考える力をつける内容であり，そのおかげで非常に勉強になったと思います．国家試験上重要な事柄も含まれ，診断・検査・治療・管理の流れが自然と考えさせられる内容で，lecture はそれをふまえて，General surgery の attending や resident の先生方が実際に例などを出し，発展的な内容も含みながら講義してくださいました．

## 子供病院での実習

また，AGMC の Guyton 先生のご配慮により，1 週間，Akron Children's Hospital に実習させていただく機会を得ました．Pediatric surgery での実習となり，inguinal hernia や umbilical hernia，GERD，hydrocele，acute appendicitis などの症例の手術を 1 日 5 〜 8 件見て，outpatient clinic の見学もさせていただくといったスケジュールでした．また，Akron Children's Hospital には，Burn center があり，重症熱傷患者に対する skin graft の手術も見学する機会を得ることができました．もちろん，night call にも参加させていただきました．

## 施　設　面

○私が AGMC の施設面で驚いたことは，集中治療室の多さです．PICU や MICU，SICU など揃っていました．術前の患者さんの部屋（pre-operating room）などもあり，施設内でも部屋による役割が分化されていて，充実していると感じました．Precaution の意識も高く，手指消毒の設備が病室毎や院内のいたるところにあることはもちろん，pre-operating room に入る時から，ヘアーキャップや靴の防護カバーを装着することは徹底されていました．病室も各部屋広く，洗面所・シャワールーム付きの病室の数が大変多くありました．

○院内で忙しく働くスタッフにも配慮されている施設であり，operating room の近くには，手術の合間に食事ができる Doctor's lunch room がありました．また，カフェテリアも夜 8 時になると一度閉鎖するのですが，night call のスタッフのために，深夜になると開放し，営業をしていました．Medical student room も用意されていて，night call の際はその部屋で休みました．また，ネームプレートは ID となっており，カフェテリアの会計はネームプレートでしていました．1 週間ごとに食費が支給されているシステムとなっており，ネームプレートがあれば食事ができました．福利厚生の充実を実感致しました．

## 本学での実習との差異

それでは，私がこの経験をふまえて，近畿大学医学部での病院実習をどのようにあるべきかを考えていきたいと思います．まず，私が最も印象的であったのは，学生の態度であり，医師の態度です．彼らは良い意味で大変 aggressive であったと思います．学力は近畿大学医学部の学生とほぼ変わらないように思いますが，国民性も手伝い，lecture での先生からの質問も彼らは臆することなく発言していきます．1 年目の resident も学生に楽をさせず，どんどん質問を投げかけます．attending は手術における大きな役割を resident に任せて，鍛えようという姿勢を私は見学しながら感じました．学生はその attending，resident の姿を見ているからか，自分は早く一人前の doctor になるのだという強い意識で医学に向き合っているように思いました．その意識があると実習はより興味深いものとなると思います．私は毎日，NEOUCOM の学生に「昨日は何をしたのか」と聞かれました．何の手術を見たのか，外来ではどんな患者さんを見たのか…その点からも学生の学ぶ意欲も感じました．強い意識づけを手伝う病院実習，それは難しいことではありますが，各科ごとにどのような事（検査や治療，外来など）を行っているかを積極的に学生に経験させ，そしてなにより，指導医の先生との対話が必要でないかと感じました．留学中は毎日，先生方から何か質問はないかと聞かれました．質問はないという事はすべて理解しているか，何も興味がないかのどちらかということです．私は質問することにより，先生との対話も広がり，質問以上の知識が得られ，自分の勘違いからも抜け出すということが多かったです．私は今後も意識して続けていこうと思います．疑問を探し出し，質問や文献検索などで解決していくという姿勢で臨みたいです．近畿大学の実習でも，学生も先

生方もその点に意識してはどうかと思いました．
○カルテをつけさせ，担当患者さんの状態を学生から聞きだし，責任感を植えつけることも大事だと思います．カルテの形式も SOAP で統一し，整理された思考を磨くことも一つの方法だと，考えています．
○また，カンファレンスの内容は resident の先生方による症例報告，それに対する討論，attending の先生方による外部の先生をお招きしての症例報告会であり，私にとっていい勉強となり，また，それも強い意識付けの要因にもなると思いました．resident の先生方の resarch も聞く機会をいただき，良い刺激となりました．そのような機会を学生に設けるのもいい方法かもしれません．

## 終わりに

最後になりましたが，今回，海外での臨床実習という貴重な機会を与えてくださった，近畿大学医学部塩﨑均部長，同松尾理教授，同磯貝典孝教授，並びに海外臨床実習委員会の先生方，近畿大学医学部同窓会の皆様，形成外科学教室の皆様方，現地で大変お世話になった松島星華先生，松島映理子様，Dr. Williamson，Dr. Guyton，Dr. Landis，Akron General Medical Center の皆様方，Akron Children's Hospital の皆様方には心より厚く御礼申し上げます．